

安全・健康部会

I. 研究の概要

1. 研究課題

安全・健康について主体的に考え行動できる子を育成するための実践はどうあるべきか

2. 研究内容

[研究内容 1]

～子どもたちの安全・危機管理、防災・減災教育、学校環境・環境整備はどうあるべきか～

①安全・危機管理

家庭や地域と連携し児童、生徒の安全を守る取組

②防災・減災教育

避難訓練の方法や特徴、地域との連携についての取組

③学校教育・環境整備

[研究内容 2]

～子どもたちの食育と健康、体力向上はどうあるべきか～

①食育と健康

給食指導・食物アレルギーの対応についての取組

②体力向上

体力向上のための取組

※上記に加え、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス対応についても研究内容に含めた。

- ・新型コロナウイルス感染防止のための環境整備
- ・家で過ごす時間が長くなることによって低下した児童生徒の体力向上の実践
- ・行事の工夫、実践の状況
- ・登校に恐怖を感じる児童生徒への心のケア
- ・その他、感染防止に関わる実践

3. 研究方法

(1) 授業実践

- ① 各校での取組や現状分析を基本にして、実践を積み上げる。

(2) 研究協議会

- ① 研究協議会を行う中で、各校の実践発表を中心に交流を行う。
- ② 管内1ブロックで行う。全体で理論研修の後、2分科会をそれぞれ小グループに分ける。
- ③ 研究協議会の実施場所・方法などについては部会だよりにて連絡する。

(3) 啓発・発信・連絡

- ① 部会 HP などを通じ、有益な情報を提供したり、各種連絡などを行ったりする。
- ② 研究協議会で話し合われた内容については、HP、各種刊行物・関係機関へのはたらきかけを通して広く発信していく。

II. 実践研究の経過と成果

1. 実践研究の経過

(1) 部会役員研修会による研究経過

- 5月12日 第1回部会役員研修会
研究計画の概要の確認、研究協議会のもち方について
- 8月25日 第2回部会役員研修会
研究協議会のもち方、研究の成果・課題のまとめについて
- 9月1日 部会役員臨時研修会
Google Meet の配信・接続テスト
- 9月6日 石教研課題部会研究協議会

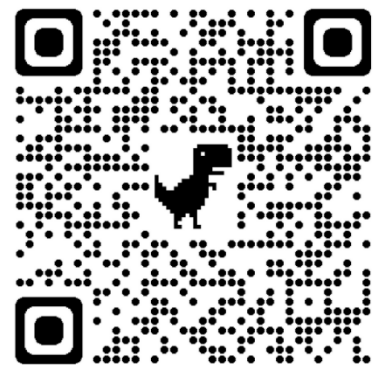
- 1月26日 第3回部会役員研修会
研究の成果・課題のまとめと次年度研究計画について

(2) 部会役員研修会での研究成果

- ・新型コロナウイルスによる影響を考慮し、対面形式ならびにオンライン形式での開催で研究を進めることを確認した。
- ・各校1端末の接続による参加を基本とし、事前に接続テストを行ったことで、Google Meet でのオンライン協議に不安を感じていた部会員へのサポートを行うことができた。
- ・レポートの提出本数やその内容の充実が部会協議を活発にするため、どのような方法をとればレポートを書きやすいか、提出が増えるかを検討した。研究内容については、昨年度に引き続き、各学校で課題が多い「新型コロナウイルス対応」に関わる実践を含めることとした。その結果、感染防止のための環境整備や、教育課程の工夫など、多くの実践報告が寄せられた。
- ・現在の管内の学校環境や職場環境について協議し、今年度の学習会、特に分科会のもち方について検討した。
- ・C4th などを通してデータでのレポート提出をお願いした結果、例年よりも多くのレポート本数が集まった。内容についても、上述したように安全・健康それぞれについて、多岐にわたる内容のレポートとなった。
- ・オンライン形式となったことから、対面形式の実技理論研修会で予定していた「防災・減災に関する内容～Do はぐ(避難所運営ゲーム)～」は中止となった。しかし、理論研修会の中で Do はぐの概要についてお話していただいた結果、避難所設置の疑似想定体験を通じて、非常時への備えを意識しておく必要を感じた。また、事後の部会員アンケートでも好評であった。



↑リニューアルしたHP



一度アクセスしてみてください！

更新内容をトップページに記載しています

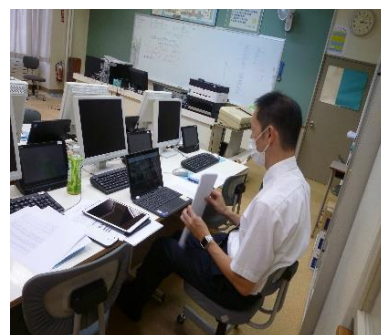
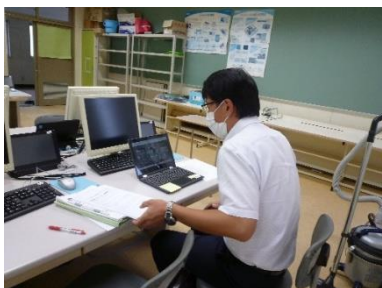
QRコードからもぜひ！

2. 課題部会研究協議会内での交流

(1) 課題部会研究協議会での交流内容

① レポート交流の様子

今年度は各校1端末での参加としたことから、参加校を5つのグループに分けて分科会を設定し、各校のレポートを交流した。



当日の運営の様子から

役員が5つのグループに分かれてGoogle Meetを使った分科会を行いました。

事前にC4thを通じてレポートを送付したため、参加者は事前にレポートを印刷した上で分科会に参加していました。

事務局でも、レポートを紙ベースで用意しておいて画面越しに見せながら分科会を運営する、等の工夫しながらの分科会となりました。



○主なレポート内容

[研究内容1] ～安全・危機管理、防災・減災教育、学校教育・環境整備～

- ・学校行事の工夫、実践状況について
- ・コロナ禍における音楽の授業について
- ・コロナ禍における調理実習の実施について
- ・コロナ禍における水泳学習時の感染対策
- ・感染防止対策を徹底した防災食調理体験について
- ・宿泊行事における新型コロナウイルス感染予防対策について
- ・コロナ禍での運動会 ～少しずつ日常へ～
- ・コロナ禍での運動会でも子どもが胸を熱くする競技を目指して
- ・コロナ禍における熱中症対策について
- ・第3次学校安全の推進に関する計画の策定について
- ・「防災学校」の取組について
- ・一部リモートによる引き渡し訓練

- ・コロナ禍における引き取り訓練
- ・水害に備えた避難訓練の実施について
- ・新型コロナウイルス感染防止に努めた職員連携の在り方について

[研究内容2] ～食育と健康、体力向上～

- ・今年度の新型コロナウイルス感染症対策について
- ・給食時間における新型コロナウイルス感染防止について
- ・感染症（新型コロナウイルス・感染性胃腸炎）拡大防止の取組
- ・特別支援学級における食育の取組、食べる意識を高める食育指導
- ・コロナ禍での基本的な生活習慣を身に付ける取組について
- ・本校における食に関する取組について
- ・食物アレルギー対応について
- ・新型コロナウイルス感染症から登校に不安を感じる子どもへの心のケアとは
- ・体育科授業における体づくり運動の実践例
- ・校内での「新型コロナウイルス感染防止のための環境整備」について

②成果と課題

- ・今年度は61本のレポートが集まった。好転しない新型コロナウイルス感染拡大の中にあっても、昨年度までの蓄積を踏まえ、様々な工夫が見られるレポートが多かった。
- ・先の見えない状況にありながら、部会員がどのように工夫して教育実践を進めてきたかがまとめられていて、レポート集として共有し交流できたことは大変意義深いものだったと考える。
- ・実践レポートを読むと、どれも今できることを最大限考えて実践している様子が見てわかる。できないことを悲しむのではなく、できることを話し合いで工夫して取り組む姿勢に共感することができる。部会内だけでなく、管内全体に発信し、連携してこの危機を乗り越えたい。
- ・マスクをつけて学校生活を送るのが当たり前と思っている子どもにとって、学びの歩みが止まらないように、我々教職員が一丸となって実践を積み上げていきたい。ただ、我々に過度な負担がかからないように心がけることも大切で、教職員一人一人に身体的・精神的なゆとりができるよう、スクールサポートスタッフ等の人材を増やすような職場環境の改善を願っている。

(2) 課題部会研究協議会での交流内容

討議の柱1

子どもたちの安全・危機管理、防災・減災教育、学校環境・環境整備はどうあるべきか

提言内容

○防災訓練・避難訓練について

- ・自然災害による被害を防ぐために、地域の特性を踏まえた学校施設や防災マニュアル等の整備、地域と連携した訓練の実施について報告された。
- ・新型コロナウイルス感染予防を講じた引き渡し訓練、今回の理論研修会の内容にもあった「避難所運営ゲーム (Do はぐ)」を通して、自ら適切に判断し、主体的に行動できるような実践が報告された。

○学校・学級における新型コロナウイルス感染防止対策とその工夫について

- ・音楽でのバーチャルピアノやタブレットの活用、家庭科の調理実習では、作業を限定し消毒や感染予防のルールを決める等、授業における実践例が多数報告された。
- ・登校時の混雑回避の時間差登校、感染症対策費を活用したパーテーションや連結手洗い装置、扇風機の購入など、環境整備による感染予防対策について報告された。
- ・3蜜を回避するための行事の工夫、熱中症対策と新型コロナウイルス感染予防を同時に行うための実践例について報告された。
- ・校内ビデオ放送、リモート、Google Meet 等を活用した実践例が多く報告された。

防災対応については、学校環境はもとより、地域の災害リスクを踏まえ、市町村と連携した防災教室などの取組を行うことで、より防災への意識を高めることにつながる。

各学校において、新型コロナウイルス対策を講じたさまざまな取組、工夫を行いながらの授業や行事などの教育活動を実践交流することで、学びの歩みを止めないようにしたい。

第2分科会

子どもたちの食育と健康、体力向上はどうあるべきか

提言内容

○食育指導について

- ・子どもの食への興味、関心を高めるための掲示物や便り等、地元食材を通した食育の啓発を行う取組が報告された。
- ・給食時の飛沫感染を防ぐための方策として、机にパーテーションを立てる、手洗い動画のビデオを流す等の感染予防対策の実践例などが報告された。

○アレルギー対応について

- ・エピペンの使い方研修やアレルギーを発症した場合のシミュレーションを行い、全職員で共有することが子どもの安全を守るために必要であるとの報告がされた。

○体力向上について

- ・子どもが意欲的、主体的に運動できるような取組、実践例について報告された。
- ・新体力テストやスポーツテストの結果から、瞬発力を高めるためのラダーやミニハードル、持久力の向上化を図るためのなわとび連続跳びを取り組ませている実践なども報告された。

コロナ禍において、いろいろな活動の制約がある中で、子どもの安全・健康を守るために食育指導や体力向上の取組による健康づくり、学校や行事のアレルギー対応の在り方について交流を深めることができた。どちらも、継続して取り組むことが大切であり、これまで安全・健康部会で積み上げてきた実践を生かし、さらに広げていきたい。

Ⅲ、実技・理論研修会の内容

1. 講演会の内容

防災・減災に関する内容 ～北広島市の防災について、Do はぐ（避難所運営ゲーム）等～

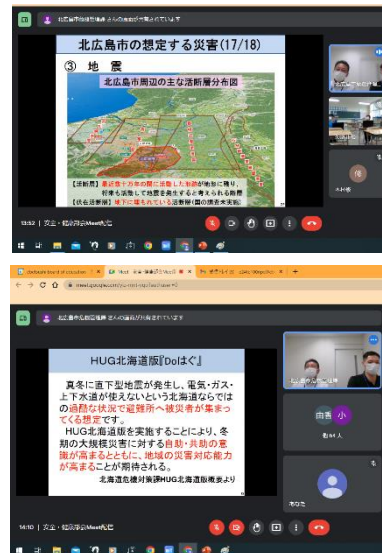
講師 西澤 弘充 氏（北広島市役所総務部防災危機管理室危機管理課 防災専門官防災士・総合危機管理士）

深山 繁弥 氏（北広島市役所総務部防災危機管理室危機管理課主任）

市ノ渡智哉 氏（北広島市役所総務部防災危機管理室危機管理課主任）

前段では「北広島市における安全・危機管理と防災・減災の仕組み」についてご講演いただいた。北広島市における過去の災害をふまえ、どのような想定の下で取組を行っているのか、啓蒙活動や備蓄の考え方といった具体的な防災に関する取組について、パワーポイントを使いながら説明していただいた。

後段では「Do はぐ（避難所運営ゲーム）の概要」についてご講演いただいた。北海道版の Do はぐは「真冬に直下型地震が発生した」という条件のもとで、避難所を運営するゲームである。その実際について具体的なカードを例にご説明いただいた。



2. 講演会の成果

私たちは普段から避難訓練などを行ってはいるが、その前提となる被害想定について詳しく知っている方は少ないと思われる。今回、北広島市を例に安全・危機管理の講演をいただくことで、今後の安全・健康を守る取組に貴重な示唆をいただくことができたと思う。

また、「Do はぐ」という子どもを対象に行うことができる実践の紹介をいただいたことで、安全・健康について主体的に考え行動できる子を育成するための実践はどうあるべきかという研究主題に対する一助とすることができたと思う。

Ⅳ、部会研究の成果と課題

1. 成果

- 昨年度よりも多くのレポートが集まり、コロナ禍において「学びをとめない」こと意識した実践が多く報告された。コロナ禍の中で各校の工夫した実践を知ることができ、有意義な交流ができた。
- 新型コロナウイルスに関わるもの以外では、研究課題に迫った実践報告が、研究内容1・2どちらにも寄せられた。コロナ禍でも、各校で子どもが主体的となって自身の安全、健康について考えられるような実践を積み重ねていることがよくわかった。
- リモート開催となったため実技研修を行うことができなかったが、講演の中で「Do はぐ」についてご紹介いただくことができ、部会員対象の事後アンケートでも好評だった。

2. 課題

- 昨年度からHPをリニューアルし、部会だよりでお知らせしたが、まだ浸透していないと感じる。適宜、情報発信を行い、部会員がみんなとのつながりを大切にすることを向上させなければならない。
- 新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、今は何ができるのか、どのようにすればいいのか、各学校の実践を情報共有し、みんなで取り組んでいくことが大切である。業務多忙でなかなか時間が取れないのが課題であり、今後も情報共有を強化していく必要がある。
- 初めてのオンラインによる研究協議ということで、スムーズに運営することができない場面があった。今回のリモート開催での課題を整理して、次年度以降に生かしていきたい

（ 文責 牧野 沙知子 ）